

Gaia Philharmonic Choir

第20回記念定期演奏会

～松下耕個展～



2025.10.26 Sun

開場15:30 開演16:00

武蔵野市民文化会館 大ホール

主催：Gaia Philharmonic Choir / 耕友会 

後援 JCD 一般社団法人 日本合唱指揮者協会 / 東京都合唱連盟 /

ICOT  東京国際合唱機構
International Choral Organization of Tokyo

助成：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京【東京ライブ・ステージ応援助成】



ご挨拶

Gaiaの演奏会が20回の節目を迎えるにあたって、私の曲のみによる演奏会を開いてくれることになった。演奏会が20回も続いて来たこと、そして私の個展を開いてくれることと、二重の喜びを感じているところである。

今年は戦後80年の記念の年でもあり、私のこれまでに書いた原爆をテーマにした曲に2曲新たに作曲して組曲として発表させていただく。そして、耕友会の連続プロジェクト「永遠の谷川俊太郎」の第7回として、組曲「ひとりひとりが出会うとき」を演奏する。この組曲名は、谷川俊太郎さん本人に命名していただいたものだ。この演奏会から3週間足らずで、俊太郎さんの初命日を迎える。谷川俊太郎という愛を、皆様に存分に感じていただけるように、心を込めて演奏しようと思っている。

Gaiaは、相変わらず和気藹々とのんびり練習を重ねている。もう少しピリッとした向上心が見えてもいいのにナ、と思うところもなくはないが（笑）、このアットホームな雰囲気なら長続きはするかな、と、出たり入ったりわりと忙しいメンバーの入れ替わりを眺めながら思っている。

私が駆け出しの頃、栗山文昭先生に言われた言葉を思い出す。「耕、合唱団の価値はどれだけ上手いかじゃない。どれだけ長続きするか、だ」

Gaiaも50回の演奏会を目指してみるか。あ、それは無理だ。その前に私、死んでる。

みんな、これからも仲良くいこうや。

音楽監督・常任指揮者

松下 耕

本日はGaia Philharmonic Choir 第20回記念定期演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。

ライフステージの変化などによりメンバーが入れ替わりながらも、20回目の演奏会を開催できることはうれしい限りです。これも日頃より温かく支えてくださる皆さまの賜物にほかなりません。ここに深く感謝申し上げます。

弊団は創団当初から「古今東西の名曲に取り組んでいきたい」という思いのもと幅広いレパートリーを扱ってききましたが、記念すべき20回目の演奏会にて全曲を音楽監督の松下耕先生の作品によって構成いたしました。日本民謡、宗教曲、そして日本の詩につけられた曲、それぞれのステージのなかで、作曲家が描き出した音の世界観を存分に味わっていただけたかと思います。

また、本日の第3ステージは組曲世界初演となります。戦争、そして原爆がもたらした凄惨な情景を書き記した詩に対して、ときには苛烈に、ときには優しく寄り添うような響きの作品を書いてくださりました。客席の皆さまとともに平和を祈るステージとなればと思います。

最後になりますが、いつも素晴らしいピアノを奏でくださるピアニストの前田勝則先生、そして、私たちを愛をもってご指導くださる松下耕先生に深く御礼申し上げます。

本日は短い時間ではありますが、心温まる時間をお過ごしいただければ幸いです。どうぞ最後までお楽しみください。

団長

中村 俊幸

プログラム

第1ステージ

平和への祈り～主とともに～

「悔悛と歓喜」四旬節から復活祭への4つのモテットより

Miserere mei

Ubi caritas

Crucifixus

混声合唱とピアノのための「主は私の羊飼いい」

詩編23

第2ステージ

日本の民謡～北から、南から～

混声合唱のためのエチュード15より

フワ ハエン

アイヌ民族の子守歌

混声合唱のためのコンポジション「日本の民謡 第10集」より

津軽じょんがら節

青森県民謡

彌三郎節

青森県民謡

混声合唱のための「奄美諸島の四つの島唄」より

さいさい節

鹿児島県沖永良部島民謡

混声合唱のための「八重山・宮古の三つの島唄」より

安里屋ユンタ

八重山群島民謡

第3ステージ

戦後80年～平和を祈念して～

混声合唱とピアノのための「八月六日」

組曲委嘱初演

渇き

作詩 | 谷川 俊太郎

八月六日

作詩 | 峠 三吉

静脈の川

作詩 | 米田 栄作

にんげんをかえせ

作詩 | 峠 三吉

第4ステージ

2025 朋友会連続プロジェクト
永遠の谷川俊太郎 ⑦

混声合唱とピアノのための「ひとりひとりが会合うとき」作詩 | 谷川 俊太郎

魂のいちばんおいしいところ

空に小鳥がいなくなった日

花三題

ひとりひとり

混声合唱とピアノのための「感謝」

作詩 | 谷川 俊太郎

第1ステージ 平和への祈り～主とともに～

「悔悛と歓喜」四旬節から復活祭への4つのモテットより Miserere mei

委嘱：Collegium Cantorum YOKOHAMA
初演：2015年11月3日 横浜みなとみらいホール 小ホール
Collegium Cantorum YOKOHAMA 第10回定期演奏会
指揮：松下 耕

「悔悛と歓喜」四旬節から復活祭への4つのモテットの第1曲であり、テキストは詩篇第56（57）篇からの抜粋による。
冒頭部は“Miserere mei”（私をあわれんでください）という言葉が何度も繰り返され、6/8拍子と3/4拍子が交錯する中で、人間の弱さと揺らぎが表現される。その後、“Deus”（主よ）という言葉をつきかけに、内省的であった音楽が次第に動きを増していく。
対位法的な中間部を経て音楽は高まり、「私を踏みつける敵を 辱めてください」という部分でクライマックスに達する。直後には、落ち着きを取り戻したように冒頭のメロディが4/4拍子で回帰し、最後のニ長調の和音には、かすかな希望さえ感じられる。

Miserere mei Deus,
quoniam in te confidit anima mea.
Misit de caelo,
et liberavit me:
dedit in opprobrium conculcantes me.

神よ 私たちを憐れんでください。
私たちの魂は あなたの中にある。
私を解放してくれるために
天から使いが降りてくる。
私を踏みつける敵を 辱めてください。

Ubi caritas

SYC Ensemble Singers（シンガポール）に献呈

2014年、Singapore Youth Choirの創団50周年を記念して、同合唱団と指揮者ジェニファー・タムのために作曲された。

愛といつくしみを通して神の臨在を歌っており、1連目は愛の交わり、2連目はいつくしみと和解、3連目は神の永遠の光がテーマになっている。

曲の終盤、尽きることのない喜びがソプラノのF音の持続によって表現され、その裏で他のパートはハーモニーを変えながらニ長調の主和音に収束する。穏やかに優しさに満ちた音楽の流れに身を委ねてお聴きいただきたい。

Ubi caritas et amor, Deus ibi est.
Congregavit nos in unum Christi amor.
Exsultemus, et in ipso jucundemur.
Timeamus, et amemus Deum vivum.
Et ex corde diligamus nos sincero.

いつくしみと愛があれば、どこにでも神はそこに共にいる
キリストの愛に結ばれ
その喜びを分かち合い
おしみなく仕えあおう
心から神をたたえて

Ubi caritas et amor, Deus ibi est.
Simul ergo cum in unum congregamur:
Ne nos mente dividamur, caveamus.
Cessent jurgia maligna, cessent lites.
Et in medio nostri sit Christus Deus.

いつくしみと愛があれば、どこにでも神はそこに共にいる
分けへだてを取り除き
ねたみと争いをしりぞけ
輪を広げて進みゆこう
主を囲む一つの輪を

Ubi caritas et amor, Deus ibi est.
Simul quoque cum beatis videamus.
Glorianter vultum tuum, Christe Deus:
Gaudium, quod est immensum, atque probum,
Saecula per infinita saeculorum.
Amen.

いつくしみと愛があれば、どこにでも神はそこに共にいる
光り輝くキリストを
素顔のままに仰ぎみる
尽きぬ喜び限りなく
世々のとこしえに
アーメン

Crucifixus

委嘱：歌い人ごんべ
初演：2017年6月25日 カノラホール 大ホール
歌い人ごんべ 第10回記念演奏会
指揮：松下 耕

この曲のテキストは、ミサ通常文のCredo（信仰宣言）から取られており、キリストの受難と復活の場面を描いている。イエスはピラトのもとで十字架にかけられ、葬られる。しかし死後三日目に、復活の奇蹟が起こる。冒頭の受難の場面では、アルトから始まる G-Fis-B-A の動機が音高を変えながら各パートに模倣される。この音形は譜面上の形が十字架に似ていることから「十字架音形（cross motif）」と呼ばれ、バッハの時代から多くの宗教作品に用いられてきた。

やがて訪れる復活の場面では、静寂の中から光が差し込むような和音がホモフォニーで鳴り響き、救いと再生の瞬間を象徴的に描き出す。

Crucifixus etiam pro nobis
sub Pontio Pilato
passus et sepultus est.

ポンティオ・ピラトのもとで、
わたしたちのために十字架につけられ、
苦しみを受け、葬られた。

Et resurrexit tertia die,
secundum Scripturas.

そして聖書に書かれているとおり三日目に復活した。

Et ascendit in coelum:
sedet ad dexteram Patris.

そして天に昇り、父の右の座に着いておられる。

混声合唱とピアノのための「主は私の羊飼い」 詩編23

委嘱：うたフェスJAPAN

初演：2024年8月25日 横浜みなとみらいホール 小ホール
うたフェスJAPAN' 24スペシャル合唱団

指揮：松下 耕 ピアノ：前田 勝則

松下耕氏の言わずと知れた名作である。女声版・男声版に続き、昨年8月に開催された〈うたフェス JAPAN' 24〉にて、待望の混声版が初演された。

日本語によって作曲されることで、詩編の言葉がより深く心に響いてくる。

聖書ではしばしば、人間は羊、神は羊飼いとして描かれる。神は、か弱い羊のような私たちのそばに寄り添い、導いてくださる存在である。

「主の家に私は帰り、生涯、そこにとどまるでしょう」とテキストが締めくくられた後に歌われるヴォカリーゼには、悲喜こもごも、言葉にできないさまざまな思いが込められている。

主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。

主はわたしを青草の原に休ませ

憩いの水のほとりに伴い

魂を生き返らせてくださる。

主は御名にふさわしく

わたしを正しい道に導かれる。

死の陰の谷を行くときも

わたしは災いを恐れない。

あなたがわたしと共にいてくださる。

あなたの鞭、あなたの杖

それがわたしを力づける。

わたしを苦しめる者を前にしても

あなたはわたしに食卓を整えてくださる。

わたしの頭に香油を注ぎ

わたしの杯を溢れさせてくださる。

命のある限り

恵みと慈しみはいつもわたしを追う。

主の家にわたしは帰り

生涯、そこにとどまるであらう。

『聖書 新共同訳』

©1987,1988 共同訳聖書実行委員会、日本聖書協会

※このテキストは原文をそのまま掲載しております。

第2ステージ

日本の民謡～北から、南から～

「日本固有の音素（＝民俗音楽）の合唱曲への再構築」は松下耕氏のライフワークの一つであり、すでに第9集まで出版されている日本の民謡シリーズをはじめ、多くの作品を世に送り出している。本日は、北は北海道から南は沖縄まで5曲の民謡作品をお届けする。

混声合唱のためのエチュード15より

フワ ハエン

アイヌ民族の子守歌

「合唱のためのエチュード」は、合唱団員の耳を育て、ソルフェージュ能力を高めるために松下耕氏が作曲した練習曲集である。同声版が100曲、混声版は58曲の様々なレベルの作品がある。

この曲は、完全音程跳躍を練習しながら民俗音楽に触れることが出来る作品である。「クマの子守歌」と言い伝えられており、親熊が子熊に有毒な草であるウシシキナを棄てなさい、気を付けてと歌う、アイヌ民族の子守歌である。

フワ ハエン
ウシシキナ ハ オスラ
フワ ハエン

フワ ハエン
ウシシキナは棄てろ
フワ ハエン



混声合唱のためのコンポジション「日本の民謡 第10集」より

津軽じょんがら節

青森県民謡

委嘱：耕友会

初演：2022年12月25日 J:COMホール八王子

3つの混声合唱団と子どもたちによるクリスマスコーラスコンサート

指揮：松下 耕

東北地方は民謡の宝庫であり、青森県にも多くの民謡がある。津軽じょんがら節は津軽三大民謡の一つで、日本を代表する民謡として広く知られている。この曲は男声合唱を混声版にアレンジした作品で、豪快に叩くように演奏する津軽三味線の音型を合唱で模している。力強いリズムオスティナートに乗って、「津軽よいとお山が高く 水がきれい女がよくて」というお国自慢の歌詞が、勇ましく男性的に歌われる。

へ ハアー 雨もやんだし お山も晴れた
村はりんごで 色づきそめた
姉こほかむり 気もいそいそと

へ ハアー お山かけたよ いい山かけた
岩木山から よくよく見たら
なじみ窓コで お化粧の最中

へ ハアー 津軽よいとこ お山が高く
水がきれい 女がよくて
声が自慢の じょんがら節よ



混声合唱のためのコンポジション「日本の民謡 第10集」より

彌三郎節

青森県民謡

委嘱：耕友会

初演：2022年12月25日 J:COMホール八王子

3つの混声合唱団と子どもたちによるクリスマスコーラスコンサート

指揮：松下 耕

青森県津軽地方に伝わる数え唄形式の民謡である。江戸中期の文化五年（1808年）、西津軽郡森田村字相野に住む農家の百姓の弥三郎という男が、隣村の万九郎の娘を嫁にもらった。しかし弥三郎の親は冷酷で、その嫁を気に入らず、朝から晩まで働かせ血が出るまでいじめ続ける。それを弥三郎は見て見ぬふりをし、嫁は泣く泣く暇をとった。この唄は、嫁が家を出るときに呪いの言葉とも、嫁に同情した村人たちが歌い始めたものとも言われている。作曲家はこの物語をコミカルに、かつ洗練されたジャズスタイルでアレンジした。

へ 一ッファエー 木造新田の下相野
村の端ずれコの 彌三郎エー
ヤーリャ 彌三郎エー
へ 二ッファエー 二人と三人と人頼で
大開の万九郎から 嫁もらた
ヤーリャ 彌三郎エー
へ 三ッファエー 三つ物揃えて貰た嫁
貰てみたどゴァ 気に合わね
ヤーリャ 彌三郎エー
へ 四ッファエー 夜草朝草欠かねども
遅く戻れば いびられる
ヤーリャ 彌三郎エー
へ 五ッファエー いびられ恥ずかれにらめられ
日に三度の 口つもる
へ 六ッファエー 無理な親衆に使われて
十の指コから 血コ流す
へ 七ッファエー なんぼ稼いでも働いても
つける油コも つけさせね
ヤーリャ 彌三郎エー
彌三郎エー

混声合唱のための「奄美諸島の四つの島唄」より さいさい節

鹿児島県沖永良部島民謡

委嘱：佐倉混声合唱団

初演：1998年5月23日 佐倉市民音楽ホール

佐倉混声合唱団 第9回定期演奏会

指揮：栗飯原 栄子

奄美諸島とは、鹿児島県奄美市、大島郡に属する奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島等で構成される島々のことである。さいさい節は沖永良部の民謡で「さい」とは「酒」、この唄はお酒を勧める唄である。沖永良部の文化は琉球文化の影響を強く受けており、さいさい節にも琉球音階が使われている。「飲んで八十、飲まなくても八十の命なら飲んだ方がまし」と明るく楽観的に歌う大変楽しい作品である。

(囃) サイサイサイ サイ持ち来 飲デ遊バ
へ 酒も飲み里前スリー 遊女も呼び里前
(囃) サイサイサイ サイ持ち来 飲デ遊バ
へ 二、三十ぬ頃にスリー 死にや如何しゅうが
(囃) サイサイサイ サイ持ち来 飲デ遊バ
へ がに美味さる御酒 スリー 吾一人飲みりゆみ
愛しゃあぬ友達と 寄よてい飲もや
へ 酒飲でいぬ八十 飲まだなむ八十
酒飲でいぬ八十 増やあらに

酒、酒、酒を持って来て飲んで騒ごうよ。
酒飲もうぜ、遊女も呼ぼうぜ、だんな。
二十や三十歳の若さで死んでしまったらどうするよ？
こんなにうまい酒、一人で飲んじまうよりは
やっぱり仲のよい友達と集まって飲んだ方がいい。
酒を飲んだって八十年の命。
飲まなくたって八十年の命。
いいか、飲んだって八十年の命。
同じならば、飲んだ方がずっとまし。

混声合唱のための「八重山・宮古の三つの島唄」より

安里屋ユンタ

八重山群島民謡

委嘱：佐倉混声合唱団

初演：1997年4月27日 佐倉市民音楽ホール

佐倉混声合唱団 第8回演奏会

指揮：粟飯原 栄子

安里屋ユンタは沖縄県八重山諸島の竹富島に伝わる民謡で、ユンタとは男女で交互に歌う労働歌の一種である。農家に生まれた絶世の美女クヤマと、王府から八重山に派遣され彼女に一目惚れして求婚する下級役人とのいざこざを描き、繰り返し歌われる「マタハリヌ チンダラカヌシャマヨ（また会いましょう、美しい人よ）」という掛け声が印象的である。豊かな混声合唱の響きと色鮮やかな転調が、沖縄の美しい大自然を想起させるスケールの大きな作品である。

サー 安里屋ぬ くやまにヨ
サーユイユイ
あん美らさ生りばしヨ
マタハリヌ チンダラカヌシャマヨ
サー いみしゃからあぶあり生りばし
サーユイユイ
くゆさから白るさしいでいばし
マタハリヌ チンダラカヌシャマヨ
サー 目差主ぬ 乞よたらヨ
サーユイユイ
あたりよやぬ望みよたヨ
マタハリヌ チンダラカヌシャマヨ
サー 目差主や ばなんばヨ
サーユイユイ
あたりよややーくれゆむヨ
マタハリヌ チンダラカヌシャマヨ
サー なゆてから んばですヨ
サーユイユイ
如何てからゆむですヨ
マタハリヌ チンダラカヌシャマヨ
サー 後ぬくとう 思いどうヨ
サーユイユイ
すらぬ為考やどうヨ
マタハリヌ チンダラカヌシャマヨ

安里屋のクヤマという娘は

あんなに美しい生まれをして
(いとしい いとしい乙女よ)
幼い時から美しい生まれてあり

小さい時から美しく孵(うまれ)た。
(いとしい いとしい乙女よ)
村長の目差役人にみそめられ

他の役人にも所望された。
(いとしい いとしい乙女よ)
「目差役人のめかけはいやだ

他の役人もきらいだ。」
(いとしい いとしい乙女よ)
何故に いやという

いかなる理由できらいなのか
(いとしい いとしい乙女よ)
後々のことを 思うからです

将来のことを 考えるからです
(いとしい いとしい乙女よ)

※表記、発音については現地でも差異があります。
※一部作曲上の変更があります。



混声合唱とピアノのための「八月六日」**組曲委嘱初演**

戦後80年の今年、この組曲を発表できることに喜びを感じている。

組曲中、2曲目『八月六日』と3曲目『静脈の川』はすでに町田市立鶴川第二中学校合唱部（指揮・眞鍋淳一）により初演済みであり、今日はその2曲に、新曲を2曲追加した形で組曲初演となる。

1 『渇き』

谷川俊太郎の詩がテキスト。ピアノの音形は、広島市内を流れる元安川の川面のきらめきのような、そして、静止した時の空白、虚無のようなものを表している。

決して潤うことのない私たち人間の業（ごう）、運命を、静かに切々と語る。

2 『八月六日』

慟哭のような閃光、爆音そして振動。人間がモノのように焼けていく事実。峠三吉の、鬼気迫る表現に、音楽も必死で食らいついた。

3 『静脈の川』

愛する息子を亡くした父の無念、そして愛を、無伴奏でうたう。広島の復興とともに明るさを増していく川に託す、息子の魂の安寧。米田栄作のこの名詩が収められている詩集のタイトルは、『広島不慮』、ヒロシマは虚しからず、である。

4 『にんげんをかえせ』

峠三吉の代表的な詩がテキスト。どのような面持ちで私が曲にしたためたのか、お聴きになって感じて欲しいと思うので、ここでは解説は控えておくことにする。人類が皆思っていること、しかし実現しないこと。戦争のない世の中を作ること。何故に人類はかくも愚かなのか。

戦争をやめろ。

今言いたいことは、それに尽きる。

松下 耕

水に渴いているだけではないのです
思想に渴いているのです

思想に渴いているだけではないのです
愛に渴いているのです

愛に渴いているだけではないのです
神に渴いているのです

神に渴いているだけではないのです
何に渴いているのか分らないのです

<水ヲ下サイ、水ヲ……>

あの日からずっと渴きつづけているのです

あの閃光が忘れえようか
瞬時に街頭の三万は消え
圧しつぶされた暗闇の底で
五万の悲鳴は絶え

渦巻くさいろい煙がうすれると
ビルディングは裂け、橋は崩れ
満員電車はそのまま焦げ
涯しない瓦礫と燃えさしの堆積であった広島
やがてボロ切れのような皮膚を垂れた
両手を胸に
くずれた脳漿を踏み
焼け焦げた布を腰にまとして
泣きながら群れ歩いた裸体の行列

石地藏のように散乱した練兵場の屍体
つながれた筏へ這いより折り重った河岸の群も
灼けつく日ざしの下でしだいに屍体とかわり
夕空をつく火光の中に
下敷きのまま生きていた母や弟の町のあたりも
焼けうつり

兵器廠の床の糞尿のうえに
のがれ横たわった女学生らの
太鼓腹の、片眼つぶれの、半身あかむけの、
丸坊主の
誰がたれとも分らぬ一群の上に朝日がさせば
すてに動くものもなく
異臭のよどんだなかで
金グライにとぶ蠅の羽音だけ

三十万の全市をしめた
あの静寂が忘れえようか
そのしずけさの中で
帰らなかった妻や子のしろい眼窩が
俺たちの心魂をたち割って
込めたねがいを
忘れえようか！

静脈の川

作詩：米田 栄作

にんげんをかえせ

作詩：峠 三吉

川を距て
おまえと私は別れていたっけ
そのころ 水がどんな色であったか
おまえは覚えているかい
私は思いだせない
.....
すっかり 荒地になったんだよ
私のとぼしい静脈のなかに
川がひとすじ 流れているんだ
澄みきった 青い水の色だ

おまえの眼差しが見え
おまえの微笑みがみえる水の色だ
私は私の胸を抱きしめる
青い青い水が温まり
燃えあがる 燃えあがる川なのだ
絵本のように 落日が彩っている川なのだ
おまえの乳臭い体温のよう
そうら おまえもわかるだろう
じっと おまえと私が抱き合っているー
静脈のなかの川だ
川がいくすじも貫いている荒地だ
しずかにお聞き
水脈にひびいている久遠の鐘を
.....

一層明るくなったね
ひかりも風もおまえの円ら瞳も
永遠も黙示も明るくなったね
青い川明りにゆれて
おまえよ やすらかにお寝みよ

ちちをかえせ ははをかえせ
としよりをかえせ
こどもをかえせ

わたしをかえせ わたしにつながる
にんげんをかえせ

にんげんの にんげんのよのあるかぎり
くずれぬへいわを
へいわをかえせ

「八月六日」「静脈の川」

委嘱：町田市立鶴川第二中学校合唱部

指揮：眞鍋 淳一

峠 三吉

1917年大阪府生まれ。幼少期に広島へ移住し、文学に親しむ。広島商業学校卒業後、肺の病を患い療養生活を送りながら詩作を続けた。25歳でカトリックの洗礼を受け、信仰を支えに創作を深める。1945年に広島市内にて被爆。直後、親戚や知人を捜し歩いて見聞した惨状を詳細に記し、その体験が1951年に刊行した『原爆詩集』の原型となった。戦後は広島青年文化連盟や雑誌編集を通じて文化復興に尽力。1953年、病氣療養のための手術中に36歳で逝去。

米田 栄作

米田栄作は1908年広島市段原村に生まれる。小学校時代に俳句に親しみ、商業学校で詩作を始める。1920年代には個人詩誌を創刊し活動。1937年に第一詩集『鳩の夜』を刊行するが、日中戦争や友人黄濂の死を経てその後詩作を中断。1945年8月、被爆。三男哲朗を失い10月に妻も他界。1945年9月、西日本を襲った台風にて広島の廃墟、残骸が洗い流され、太田川、三角州(デルタ)も蘇りをみせた。米田は、人間回復、広島再生への思いからその直後から再び詩筆をとる。戦後は峠三吉らとともに「広島詩人協会」を結成し、詩集『川よとわに美しく』『八月六日の奏鳴』などを発表。被爆詩人として国内外に平和を訴えた。2002年に94歳で逝去。



《2025 耕友会連続プロジェクト》

昨年、惜しまれながらこの世を去った詩人、谷川俊太郎を悼み、耕友会所属合唱団では、本年に行われる演奏会のプログラムに谷川俊太郎 × 松下 耕によって作られた合唱曲を演奏し、リレー形式により、谷川俊太郎の偉業の一端をご紹介します。

混声合唱とピアノのための「ひとりひとりが出会うとき」

作詩：谷川 俊太郎

1 『魂のいちばんおいしいところ』

冒頭は、眩い光を織り込むかのように幻想的で、どこか不安定なピアノで始まる。続く合唱は、変ト長調の優雅な6/8拍子にのせて、「かみさま」が与えた恵みへの感謝を歌い上げる。

リングといえば旧約聖書の創世記を想起させるが、ここでいう「かみさま」とは、特定の唯一神だけでなく、八百万（やおよろず）の神が宿る自然、ひいては身の回りのあらゆる存在を指しているのであろう。

そして、どのような境遇にあっても、「魂のいちばんおいしいところ」、一すなわち「愛」—は誰にでも平等に与えられるのだ。たとえ、あなた自身が気づいていなくとも。

2 『空に小鳥がいなくなった日』

森に迷い込んだ小鳥があてもなく彷徨うようなモノローグで始まる。しかし、そのさえずりはやがて途絶える。特徴的な12/8拍子と女声合唱の完全音程は虚無感を際立たせるが、そのハーモニーが徐々に崩壊していく様は、人の手によって自然が破壊されていく悲劇を切々と描き出す。

この詩は、1970年代の高度経済成長期、急激な都市化の代償として生じた環境問題へ一石を投じるべく生み出された。それから半世紀が経った。わたしたちヒトは、今もなお鳥を忘れ、独りよがりな歌を歌い続けているのではないだろうか。

3 『花三題』

本作は、1篇の詩でありながら花を主題とした3つの章で構成される、一風変わった形式をとる。

各章の冒頭には、特徴的なピアノと合唱のハミングが挿入される。

名も知らぬ花を手し、やがて命を落とす運命にある男。名もなき野花をもつ少女が目映り、死を踏みとどまる男。そして、バラの花に見守られながら、母の愛に包まれる赤子。

3者の対照的な境遇を風景画のように描き分けるピアノと、語り部として時に淡々と、時に情熱的に歌い続ける合唱の対比をお聴きいただきたい。

4 『ひとりひとり』

「ひとりひとり 違う目と鼻と口をもち ひとりひとり 同じ青空を見上げる…」

令和の時代に、この詩人の言葉はどのように響くであろうか。

信仰、人種、歴史。「違い」は争いの火種となり、私たちはいまだ「同じ」であることを互いに押し付け合っている。しかし彼は、そんな世界さえも肯定し、人々が互いを認め、手を取り合って平和へ歩む未来を願い、言葉を紡ぎ続けた。

「ひとりひとり」は、彼のその言葉を、アップテンポなピアノとエネルギーに満ちた合唱で歌い上げる。その言葉が、いつか現実のものとなることを祈りながら。

魂のいちばんおいしいところ

神様が大地と水と太陽をくれた
大地と水と太陽がりんごの木をくれた
りんごの木が真っ赤なりんごの実をくれた
そのりんごをあなたが私にくれた
やわらかいふたつのてのひらに包んで
まるで世界の初まりのような
朝の光といっしょに
何ひとつ言葉はなくとも
あなたは私に今日をくれた
失われることのない時をくれた
りんごを実らせた人々のほほえみと歌をくれた
もしかすると悲しみも
私たちの上にひろがる青空にひそむ
あのあてどないものに逆らって
そうしてあなたは自分でも気づかずに
あなたの魂のいちばんおいしいところを
私にくれた

空に小鳥がいなくなった日

森にけものがいなくなった日
森はひっそり息をこらした
森にけものがいなくなった日
ヒトは道路をつくりつづけた

海に魚がいなくなった日
海はうつろにうねりうめいた
海に魚がいなくなった日
ヒトは港をつくりつづけた

街に子どもがいなくなった日
街はなおさらにぎやかだった
街に子どもがいなくなった日
ヒトは公園をつくりつづけた

ヒトに自分がいなくなった日
ヒトはたがいにとても似ていた
ヒトに自分がいなくなった日
ヒトは未来を信じつづけた

空に小鳥がいなくなった日
空は静かに涙ながした
空に小鳥がいなくなった日
ヒトは知らずに歌いつづけた



花三題

摘んでから兵士は
その花の名を知らぬことに 気付いた
国にいる女への手紙にその花をはさみ
名を教えてほしいと書いた
返事が来た 誰もが知っている ありふれた名だった
その時 一発の弾丸が 兵士のこめかみを貫いた

ひとたばの わずかな野花を頭上に高くかかげ
少女は荒野を走ってきた
ただそれだけの情景しか浮かばなかったが
ただそれだけの情景ゆえに
男は死ぬことをとどまった

外には雪が降りしきっている
生まれたばかりの赤ん坊の
おぼろげに明けゆく視野にうつる
母の乳房とその向こう

窓辺の一輪のバラ

ひとりひとり

ひとりひとり違う目と鼻と口をもち
ひとりひとり同じ青空を見上げる
ひとりひとり違う顔と名前をもち
ひとりひとりよく似たため息をつく

ひとりひとり違う小さな物語を生きて
ひとりひとり大きな物語に呑みこまれる
ひとりひとりひとりぼっちで考えている
ひとりひとりひとりていたくないと

ひとりひとり簡単にふたりにならない
ひとりひとりだから手がつなげる
ひとりひとりたがいに会おうとき
ひとりひとりそれぞれの自分を見つける

ひとりひとりひとり始まる明日は
ひとりひとり違う昨日から生まれる
ひとりひとり違う夢の話をして
ひとりひとりいっしょに笑う

ひとりひとりどんなに違っていても
ひとりひとりふるさとは同じこの地球

「魂のいちばんおいしいところ」「空に小鳥がいなくなった日」

委嘱：第38回全国高等学校総合文化祭 いばらき総文2014

初演：2014年7月31日 つくば市ノバホール

第38回全国高等学校総合文化祭 いばらき総文2014

指揮：古橋 富士雄 ピアノ：千葉 直美

「花三題」「ひとりひとり」

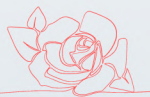
委嘱：室内合唱団VOX GAUDIOSA

初演：2017年10月8日 第一生命ホール

室内合唱団VOX GAUDIOSA 第20回記念定期演奏会

指揮：松下 耕 ピアノ：前田 勝則

※作曲にあたり、詩人の諒解のもと変更した部分がある。



谷川 俊太郎

詩人。1931年東京生まれ。1952年、第一詩集『二十億光年の孤独』を刊行。1962年「月火水木金土日の歌」で第四回日本レコード大賞作詩賞、1975年『マザー・グースのうた』で日本翻訳文化賞、1982年『日々の地図』で第三十四回読売文学賞、1993年『世間知らず』で第一回萩原朔太郎賞など受賞・著書多数。詩作のほか、絵本、エッセイ、翻訳、脚本、作詞など幅広いジャンルで活躍。作品は海外でも多数翻訳され、2020年に国際交流基金賞、2022年にストックホルム詩のタペ金冠賞を受賞。音楽を愛し、その詩は合唱曲としても親しまれたほか、ジャズピアニストで作曲家の息子・谷川賢作率いる現代詩を歌うバンド、DiVaとともに全国各地での朗読、ライブ活動にも力を注ぎ、詩の裾野を大きく広げた。2024年11月逝去。



感謝 ―谷川俊太郎さんへ

2024年11月13日、ついにこの日が来てしまいました。私たちの希望、心の拠り所である、詩人 谷川俊太郎さんが天に召されたのです。享年92歳。私は、心のどこかで、この日が来ることは覚悟しなければいけない、と思いながら、しかし俊太郎さんが死んでしまうなんてことは考えられなかったのです。永遠に生き続ける人のような気がしてならなかった。

しかし、その死がとうとう現実になってしまったのです。

もう、俊太郎さんのペンから、一つの言葉も作り出されないのだと思うと、不安と恐怖で叫び出しくなります。

しかし同時に、彼はどれほど多くの優しさと希望に満ちた言葉を私たちに与えてくださったのでしょうか。これ以上の言葉のおねだりは我儘というものですね。

― そんなことを想いながら、喪失感、虚無感の中で日々を過ごしていたら、カワイ出版から委嘱をいただきました。俊太郎さんの最期の詩のひとつ、『感謝』に作曲してください、とのこと。嬉しかった。私は書くことによって、喪失感からほんの少し脱することができました。俊太郎さんが、ピアノの隣にいてくれるような気がしたからです。

同時に、この作品は、はじめて俊太郎さん本人の耳に届くことはないものなのだ、と思うと、涙があふれました。作曲しながら、感情がほとぼりました。

寂しい。でも、やはり俊太郎さんの言葉は私を癒してくれるのです。なんということでしょう。私は故人の愛に包まれているのです。感謝するのはこちらの方です。

そして―やはり谷川俊太郎は生きている。詩を読むことによって、こうして曲にすることによって、そして、みなさんがこの曲を歌うことによって、確かに彼は生き続けるのです。

永遠に。

松下 耕

(混声合唱とピアノのための「感謝」(カワイ出版)前書きより転載)

目が覚める
庭の紅葉が見える
昨日を思い出す
まだ生きてるんだ

今日は昨日のつづき
だけでいいと思う
何かをする気はない

どこも痛くない
痒くもないのに感謝
いったい誰に？

神に？
世界に？ 宇宙に？
分らないが
感謝の念だけは残る



ガイアと谷川俊太郎作詩作品のあゆみ

ガイアのこれまでの定期演奏会での谷川俊太郎作詩作品の演奏歴をご紹介します。

- 第1回 混声合唱曲集「そのひとが歌うとき」 作曲：松下 耕
混声合唱とピアノのための「信じる」より 信じる 作曲：松下 耕
(2004年4月24日 所沢市民文化センター ミューズ アークホール)
- 第3回 混声合唱とピアノのための「この星の上で」(混声版委嘱初演) 作曲：松下 耕
(2006年4月23日 第一生命ホール)
- 第4回 混声合唱のための「地球へのバラード」 作曲：三善 晃
(2007年12月9日 第一生命ホール)
- 第5回 混声合唱とピアノのための「この星の上で」 作曲：松下 耕
(2009年9月23日 第一生命ホール)
- 第6回 混声合唱とピアノのための「すこやかに おだやかに しなやかに」より
たったいま 作曲：松下 耕
(2010年9月20日 杉並公会堂 大ホール)
- 第9回 混声合唱とピアノのための「おわりのない海」より 影と海 作曲：松下 耕
混声合唱とピアノのための「信じる」より 信じる 作曲：松下 耕
(2013年9月22日 第一生命ホール)
- 第10回 混声合唱とピアノのための「その日-August 6-」 作曲：三善 晃
混声合唱のための「うた II」より 死んだ男の残したものは 作曲：武満 徹
(2014年9月7日 渋谷区文化総合センター大和田 さくらホール)
- 第14回 無伴奏混声合唱のための「聴くと聞こえる一朝の音一」 作曲：名田 綾子
(2019年1月27日 第一生命ホール)
- 第15回 混声合唱とピアノのための「ひとりひとりが会合するとき」 作曲：松下 耕
(2019年11月16日 第一生命ホール)
- 第16回 混声合唱とピアノのための「この星の上で」 作曲：松下 耕
(2021年1月17日 第一生命ホール)

Next..

2025 親友会連続プロジェクト
永遠の谷川俊太郎 ⑧

親友会で実施する連続企画、「永遠の谷川俊太郎」は第8弾へと続きます。
谷川俊太郎×松下耕にまつわる豪華賞品が手に入るスタンプラリーも実施中です。
ぜひご参加ください！

室内合唱団 VOX GAUDIOSA

第27回定期演奏会

2025/11/30(日)

13:30開場 14:00開演

J:COMホール八王子

曲目

混声合唱のための「あい」

混声合唱とピアノのための組曲「静かな雨の夜に」

音楽監督・常任指揮者
松下 耕



1962年東京生まれ。作曲家、合唱指揮者。国立音楽大学作曲学科首席卒業。卒業後、ハンガリーに渡り、合唱指揮法及び作曲法を学ぶ。レマーニ・ヤーノシュ、モハイ・ミクローシュ他に師事。作曲家として生み出している作品は、合唱曲を中心として多岐にわたり、世界各国で広く演奏され、楽譜も国内外で出版が相次いでいる。これまでに、国内およびポーランド、中国、台湾において個展が開催された。2005年、合唱音楽における国際的かつ優れた活動が認められ、「ロバート・エドラー合唱音楽賞」をアジア人で初めて受賞した。2023年、国際コダーイ協会より名誉賛同者（Distinguished Patron）に任命される。2023年、世界合唱シンポジウムで、シンポジウム初となる『国際作曲マスタークラス』の講師を務めた。2023年、ポーランド宗教音楽研究所より、最優秀宗教音楽家として表彰される。第91回（2024年度）NHK全国学校音楽コンクール高等学校の部課題曲「明日のノート」作曲家。一般社団法人東京国際合唱機構代表理事。板橋区観光振興ビジョン2035策定検討委員会委員。

ピアニスト
前田 勝則



山口県に生まれる。東京学芸大学卒業。東京藝術大学大学院首席修了、修了時にNTTドコモ奨学金を授与される。日本室内楽コンクール、吹田音楽コンクール、大曲新人音楽祭コンクール、かずさアカデミア音楽コンクールなどに上位入賞。NHK-FM「土曜リサイタル」、東京文化会館新進音楽家デビューコンサート、ABC新人コンサート、日本演奏連盟推薦新人演奏会などのオーディションに合格。お話を交えた親しみやすいプログラムによるコンサートは各地で好評を博している。アンサンブルピアニストとしては特に合唱分野で数々の演奏会に出演、教材やCDの録音も多数。自宅でのピアノ演奏動画を中心に投稿しているYouTubeチャンネル「pianomaedafull」は登録者数約8万人。定番のクラシックピアノ曲はほぼ網羅されている。

打楽器奏者
高柳 瑛人



埼玉県朝霞市生まれ。
尚美学園大学 音楽表現学科(打楽器専攻)へ特待生で入学。在学中、一年次前期 実技成績優秀者として、「ダブルレッスン生徒」選出。三年次より、国立音楽院 東京校へ編入、卒業。現在、フリーランスの打楽器奏者として、大学吹奏楽団や一般吹奏楽団、ゲーム音楽オーケストラの客演に多数参加。
音楽工房Giocosco AlaMusicSchool、MUSICYオンラインレッスン 各打楽器講師。

ヴォイストレーナー
上杉 清仁



高知県出身。千葉県松戸市在住。高知大学人文学部卒業。同大学院教育学研究科修了。東京藝術大学大学院修士課程、博士後期課程を修了し博士号（音楽）を取得。スイス政府奨学金を得てスイス・バーゼル音楽大学・スコラカントルムに留学し、ゲルト・チュルク、アンドレアス・ショル両氏のもとで研鑽を積む。しなやかで柔らかない美声と的確な解釈による多彩な表現には定評があり、日本を代表する実力派カウンターテナー歌手として活躍している。また、発声解剖学にも造詣が深く、日本全国で発声に関する様々な悩みを解消しており、発声指導者としても不動の信頼を得ている。これまでに声楽を小原浄二、野々下由香里、伊原直子、故戸田敏子、ペーター・コーイ、ロビン・ブレイズ、パスカル・ベルタン、故クラウド・オッカーの各氏に師事。声楽アンサンブル『ラ・フォンテヴェルデ』メンバー。カクウチ・デムジカ音楽監督、楽奏団あ・うん指揮者。日本声楽発声学会理事、日本音声言語医学会員。昭和音楽大学講師。

合唱

ガイア・フィルハーモニック・クワイア Gaia Philharmonic Choir



“Gaia”とは、ギリシア神話の大地の女神の名前。悠久の大地のように揺るぎない音楽を奏で、ともに歌いあうことで平和を祈りたいという思いから名づけられた。国内外の合唱団との交流に力を入れており、シンガポール、フィリピンとの合唱団とのジョイントコンサート『THREE』を2006年から10年にわたって6回開催、交流を深めた。また、北海道の合唱団とのジョイントコンサート『Four Leaves Concert』を2016年より3回開催した。2001年及び2002年、全日本合唱コンクール全国大会にて金賞受賞。2014年、国際合唱コンクールMundus Cantatに出場し、総合グランプリを受賞。2023年7月、京都アルティ声楽アンサンブルフェスティバル2023に招待合唱団として出演。

Soprano

飯室 遥香
池田 理帆
蟹江 春香
鈴木 晴
大安 香澄
谷 夏七星
塚原 美奈子
永塚 由季
森 美和子

Alto

相田 歩
沖田 知恵美
阪口 加奈恵
関口 順子
高橋 佳代子
徳永 ひかる
野元 一葉
山本 真記子
山本 梨央
油原 真智子

Tenor

木崎 誠史
榊原 暁仁
富澤 佳央
中村 優汰
根本 健一
山中 拓哉

Bass

坂井 聡大
中村 俊幸
深谷 章史
吉本 宗一郎

次回演奏会

Gaia Philharmonic Choir

第21回定期演奏会

2026/11/15(日)
杉並公会堂 大ホール

各種SNSはこちら

Instagram



X(旧Twitter)



Facebook



- HP : <http://gaia2001.com/>
- Instagram : @gaiaphilharmonicchoir
- X(旧Twitter) : @GaiaChoir
- Facebook : [fb.com/GaiaChoir](https://www.facebook.com/GaiaChoir)

団員募集

こんなあなたに！

- ・松下耕の指揮で歌ってみたい
- ・久々に合唱を再開したい
- ・大学卒業後の合唱団を探している
- ・プロの声楽家から発声を学びたい
- ・国内外に演奏旅行したい
- ・混声合唱の様々な名曲に触れたい

練習について

練習日 : 毎週日曜日13-17時
会場 : 東京都内公共施設
団費/月 : 一般3,500円 学生1,500円

見学問合せ

Mail: gaiaphilharmonicchoir@gmail.com



第1回定期演奏会

2004年4月24日

所沢市民文化センター ミューズ アークホール

晩祷Op.37より(ラフマニノフ)

ミサ第11番(オルバーン)

混声合唱曲集「そのひとがうたうとき」(松下 耕)



第2回定期演奏会

2005年4月24日

めぐろパーシモンホール 大ホール

Missa Brevis(コダーイ)

混声合唱組曲「鳥のために」(松下 耕)



第3回定期演奏会

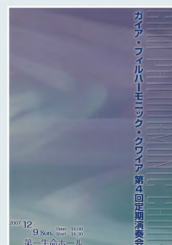
2006年4月23日

第一生命ホール

客演指揮: ジョナサン・ヴェラスコ 〈フィリピン〉

『フィリピンの合唱作品を集めて』

混声合唱とピアノのための「この星の上で」(松下 耕) *混声版委嘱初演



第4回定期演奏会

2007年12月9日

第一生命ホール

混声合唱とピアノのための「初心のうた」(信長 貴富)

混声合唱のための「地球へのバラード」(三善 晃)

交響曲「明日への風」(松下 耕)



第5回定期演奏会

2009年9月23日

第一生命ホール

客演指揮: フリーダー・ベルニウス 〈ドイツ〉

『ブラームス合唱作品集』

混声合唱とピアノのための「この星の上で」(松下 耕)

無伴奏混声合唱のための「4つのモテット」(松下 耕)



第6回定期演奏会

2010年9月20日

杉並公会堂 大ホール

混声合唱のためのコンポジション「日本の民謡 第5集」(松下 耕)

混声合唱とピアノのための「光のとりにて」(松下 耕)



第7回定期演奏会

2011年10月23日

杉並公会堂 大ホール

客演指揮: ジェニファー・タム 〈シンガポール〉

賛助出演: SYCアンサンブルシンガーズ

「Missa Tertia」(松下 耕)

混声合唱とピアノのための組曲「鎮魂の賦」(上田 真樹)

『シンガポールの合唱作品』



第8回定期演奏会

2012年9月29日

第一生命ホール

Liebeslieder. Walzer op.52 (ブラームス)

混声合唱組曲「光る砂漠」(萩原 英彦)

Missa Brevis in D KV 194 (モーツァルト)



第9回定期演奏会

2013年9月22日

第一生命ホール

悔悟節のための4つのモテット(プーランク)

混声合唱とピアノのための「おわりのない海」(松下 耕)



第10回定期演奏会

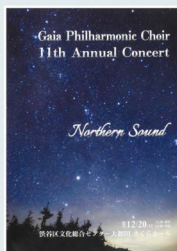
2014年9月7日

渋谷区文化総合センター大和田 さくらホール

混声合唱とピアノのための「その日 -August 6-」(三善 晃)

「廃墟から」無伴奏混声合唱のために(信長 貴富)

混声合唱とピアノのための「祈りの虹」(新実 徳英)



第11回定期演奏会

2015年12月20日

渋谷区文化総合センター大和田 さくらホール

秋の風景(トルミス)

混声合唱組曲「若い冬」(柳田 孝義)

混声合唱とピアノのための四つの日本民謡「北へ」(松下 耕)



第12回定期演奏会

2016年12月24日

第一生命ホール

混声合唱のための「おらしょ」～カクレキリシタン3つのうた～(千原 英喜)

「真夜中のミサ」(シャルパンティエ)



第13回定期演奏会

2017年12月2日

第一生命ホール

コダーイ没後50年記念ステージ『コダーイ・ゾルターンの遺言7』(コダーイ)

混声合唱組曲「鳥のために」(松下 耕)



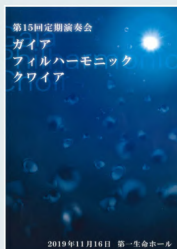
第14回定期演奏会

2019年1月27日

第一生命ホール

無伴奏混声合唱のための「聴くと聞こえる 一朝の音一」(名田 綾子) *委嘱初演

混声合唱とピアノのための4つのスケッチ「君はかわいいと」(田中 達也) *委嘱初演



第15回定期演奏会

2019年11月16日

第一生命ホール

混声合唱とピアノのための「ひとりひとりが出会うとき」(松下 耕)

混声合唱組曲「水のいのち」(高田 三郎) *公募ステージ



第16回定期演奏会

2021年1月17日

第一生命ホール

『カウンターテナー上杉清仁さんを迎えて』

混声合唱とピアノのための「この星の上で」(松下 耕)



第17回定期演奏会

2021年12月26日

銀座ブロッサム 中央会館ホール

『Edition ICOTより ―これから歌いたい名曲―』

混声合唱とピアノのための組曲「ある真夜中に」(千原 英喜)



第18回定期演奏会

2023年12月24日

第一生命ホール

3つの宗教的な歌 Op.69 (ラインベルガー)

無伴奏混声合唱のための「はじめに……」(松下 耕)



第19回定期演奏会

2024年11月23日

第一生命ホール

合同演奏:室内合唱団 VOX GAUDIOSA

混声合唱組曲「沈黙のありか」(森山 至貴)

Spirit of Nature (ズザンナ・コジェイ)

Hymn to Gaia (ズザンナ・コジェイ) *委嘱初演

